

日本海沿岸東北自動車道 ふたつ いしらかみ 二ツ井白神～あきた北空港 計画段階評価の試行について

1. 地域の状況	… 1
①自然・地理状況	
②人口・高齢化の状況	
③地域経済状況	
④交通インフラの整備状況	
⑤高次医療の状況	
⑥産業の状況	
⑦観光の状況	
2. 道路交通の状況	… 12
①道路網整備の状況	
②道路整備の経緯	
③交通事故の状況	
④走行速度の状況	
⑤災害危険度	
3. 地域及び道路の課題とその原因	… 17
4. 政策目標の設定	… 18
5. 整備方針の検討(対策案の設定)	… 20
6. 地域からの意見聴取の方法	… 24
7. 【参考】今後の想定スケジュール	… 27

1-①自然・地理状況(1)

秋田県北地域の自然・地理

- ・県都秋田市から北に約50～100km帯に位置
- ・総面積約4,400km²(秋田県の約38%)に約27万人(約23%)が居住
- ・山がちな地形の中、米代川沿いに盆地や平野が点在

▼面積

	単位	秋田県	県北地域	県に占める割合
総面積	100km ²	116.1	44.0	37.9
森林面積	100km ²	82.2	34.1	41.5
森林面積の割合	%	70.8	77.5	-
可住地域	100km ²	31.5	9.0	28.5
人口	人	1,145,501	265,893	23.2
高齢化率	%	26.9	30.4	-

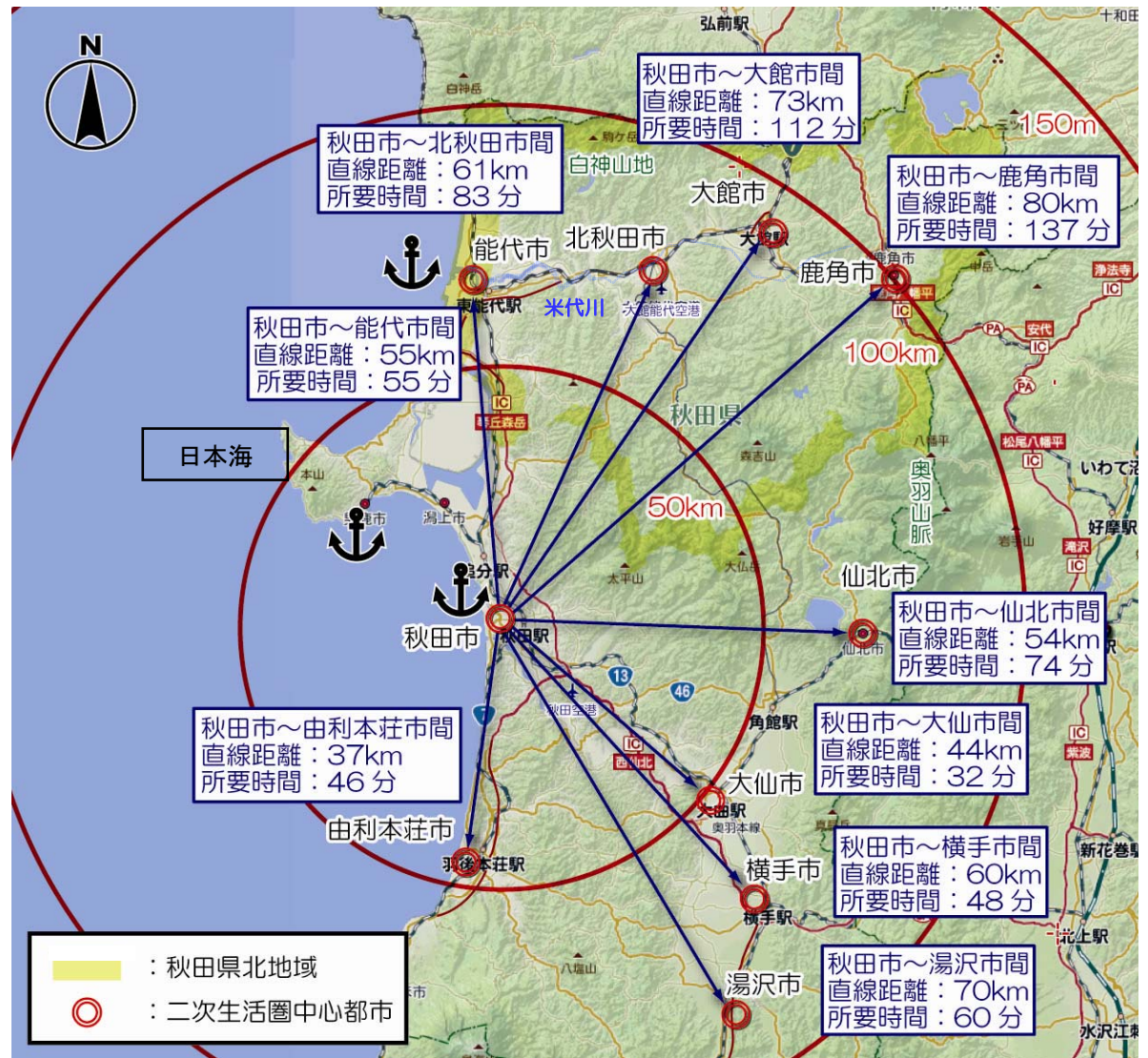
※総面積・人口「H17国勢調査」

※森林面積「H20県勢要覧」

※可住地域「統計で見る市町村のすがた 2010」



世界遺産白神山地



資料：直線距離は電子地図を用い計測

所要時間は道路時刻表07'～08'。高規格道路が整備されている場合は利用し、速度は規制速度

秋田県北地域構成市町村



資料：H17国勢調査

1-①自然・地理状況(2)

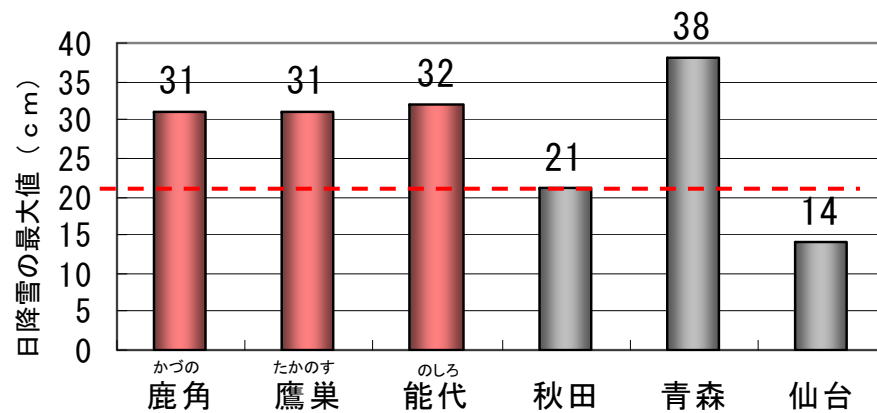
冬期の状況

県北地域全域が豪雪地帯で、うち56%が特別豪雪地帯

▼豪雪地帯の面積(単位: km²)

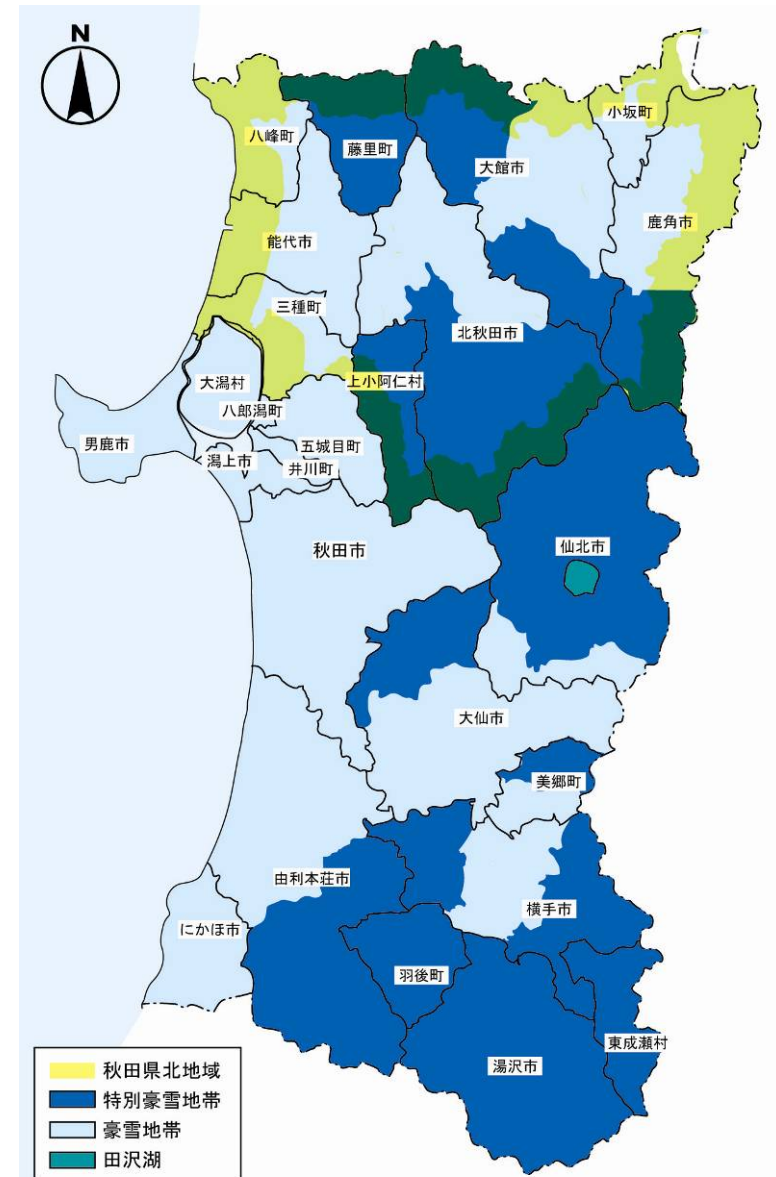
	総面積	豪雪地帯		うち特別豪雪地帯	
県北地域	4,399	4,399	100%	2,472	56%
秋田県	11,611	11,611	100%	6,017	52%
東北	66,905	55,332	83%	21,720	32%

▼日降雪の最大値比較



資料: 気象庁HP
H21、12~3月の日降雪の最大値

▼豪雪地帯指定図



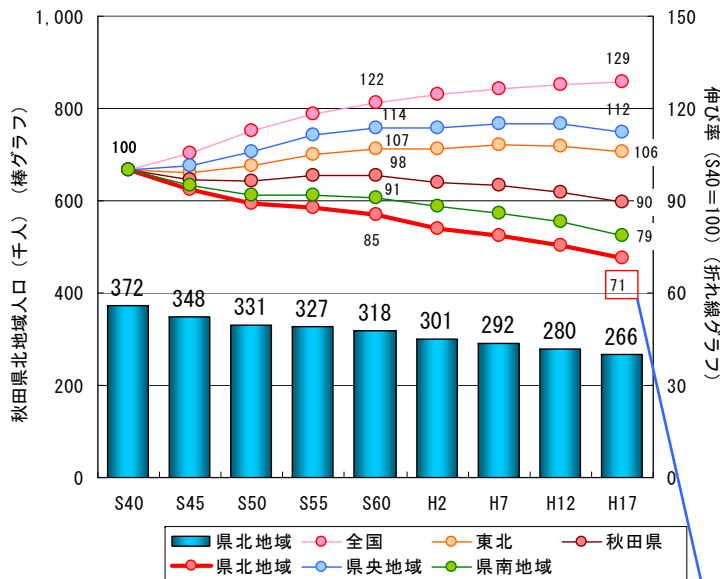
資料: 全国積雪寒冷地帯振興協議会HP

1-②人口・高齢化の状況

人口の推移

- ◆ 県北地域の人口は、S40以降県内他地域と比べても、最も高い減少率
- ◆ 高齢化は全国平均の10年先を進む状況

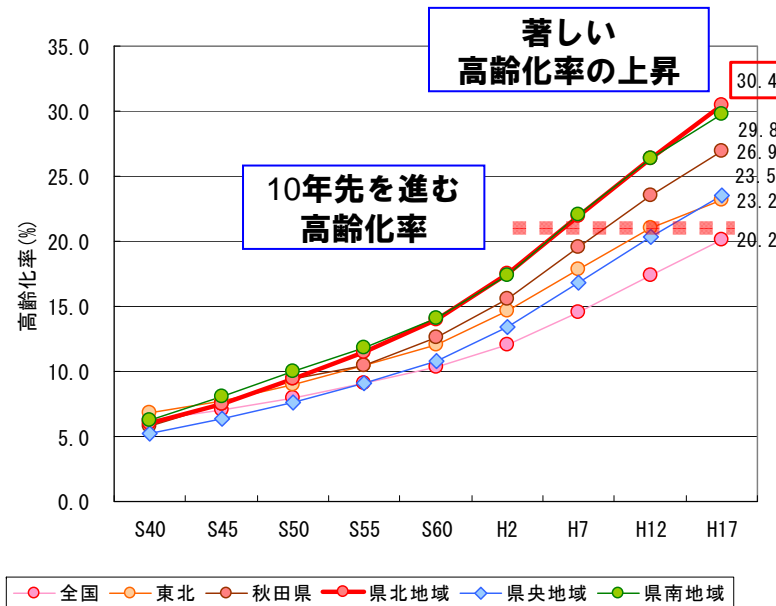
▼人口推移



県北地域の人口は過去40年で最も減少率が高い

資料：国勢調査

▼高齢化率の推移



資料：国勢調査

▼県北地域の人口動態

	H17	
	人口	高齢化率
能代市	62,858	29.3%
大館市	82,504	28.9%
北秋田市	40,049	32.9%
鹿角市	36,753	30.7%
三種町	20,438	30.5%
八峰町	9,012	32.7%
藤里町	4,348	35.5%
小坂町	6,824	33.0%
上小阿仁村	3,107	40.4%
県北地域	265,893	30.4%
県中央地域	550,961	23.5%
県南地域	328,647	29.8%
秋田県	1,145,501	26.9%
全国	127,767,994	20.1%

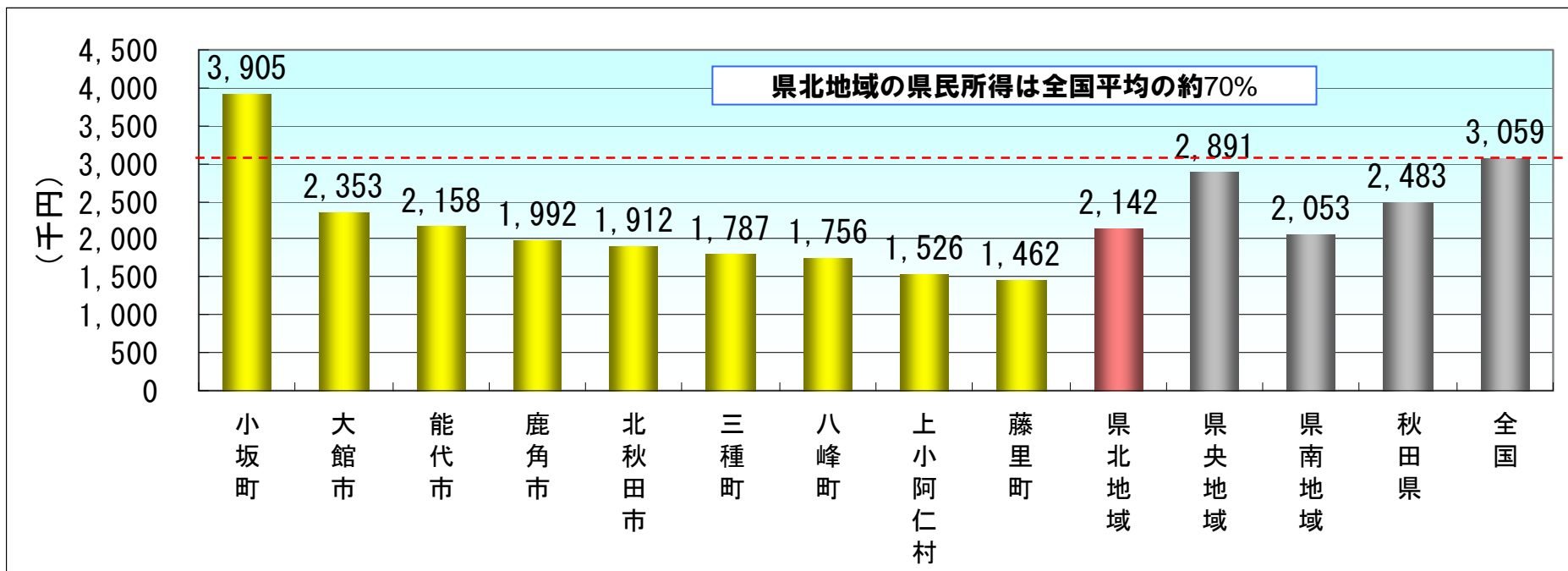
資料：H17国勢調査

1-③地域経済状況

県北地域の一人あたり所得は全国最低水準

◆秋田県の県民一人あたり所得は全国下位。県北地域の平均は全国平均の約70%

▼一人あたり県民所得



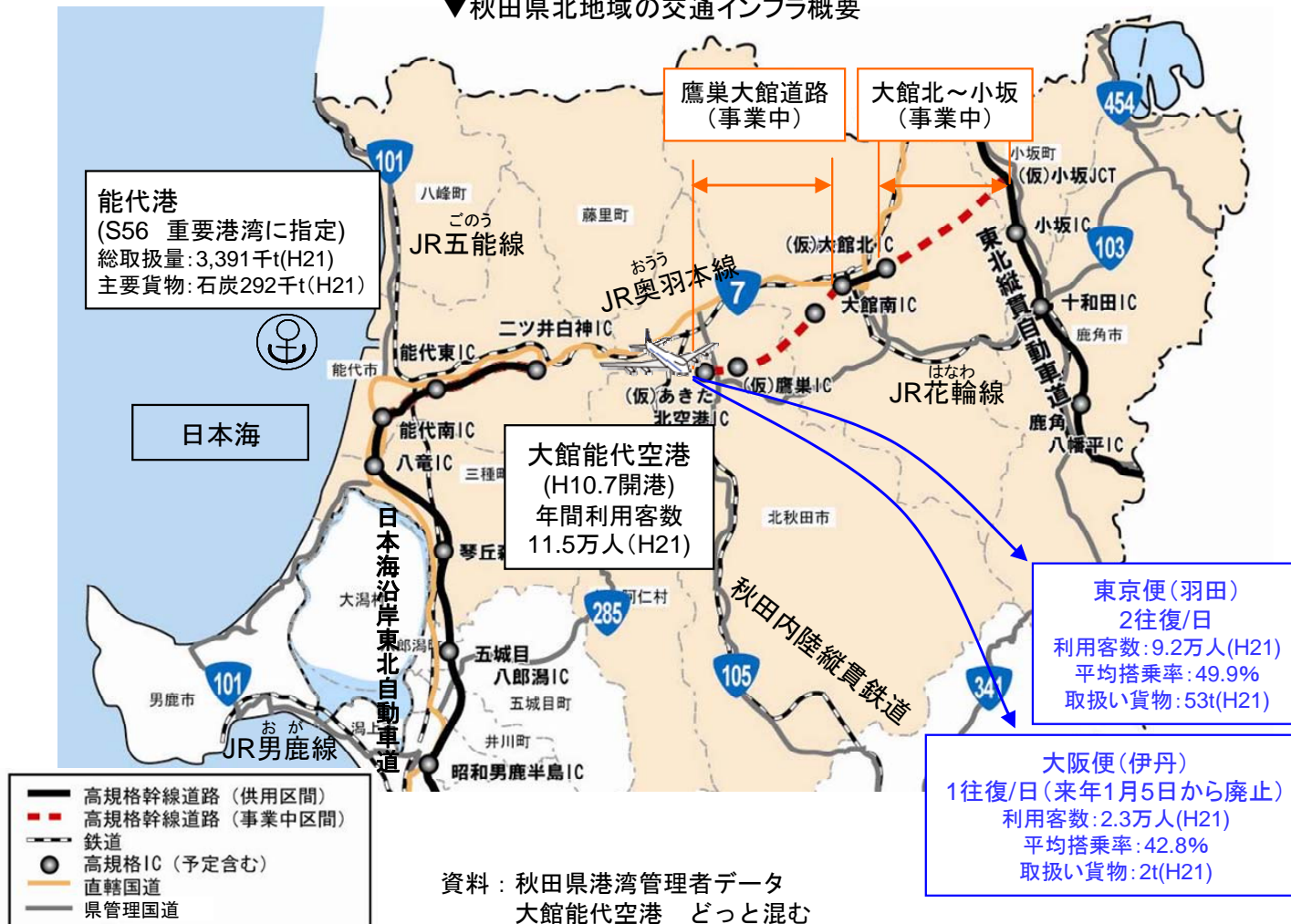
資料：平成19年秋田県市町村民経済計算
平成19年県民経済計算（1人あたり県民所得）

1-④ 交通インフラの整備状況

秋田県北地域のインフラ概要

- ◆ 高速道路: 東北縦貫自動車道、日本海沿岸自動車道。ただし、日沿道はニツ井白神IC～小坂間が未供用区間(一部供用中)
- ◆ 鉄道: JR奥羽本線、JR五能線、秋田内陸縦貫鉄道(第3セクター)
- ◆ 港湾空港: 能代港、大館能代空港
- ◆ 県北地域の世帯あたりの自動車保有台数は2.27台/世帯と自動車依存が高い

▼秋田県北地域の交通インフラ概要

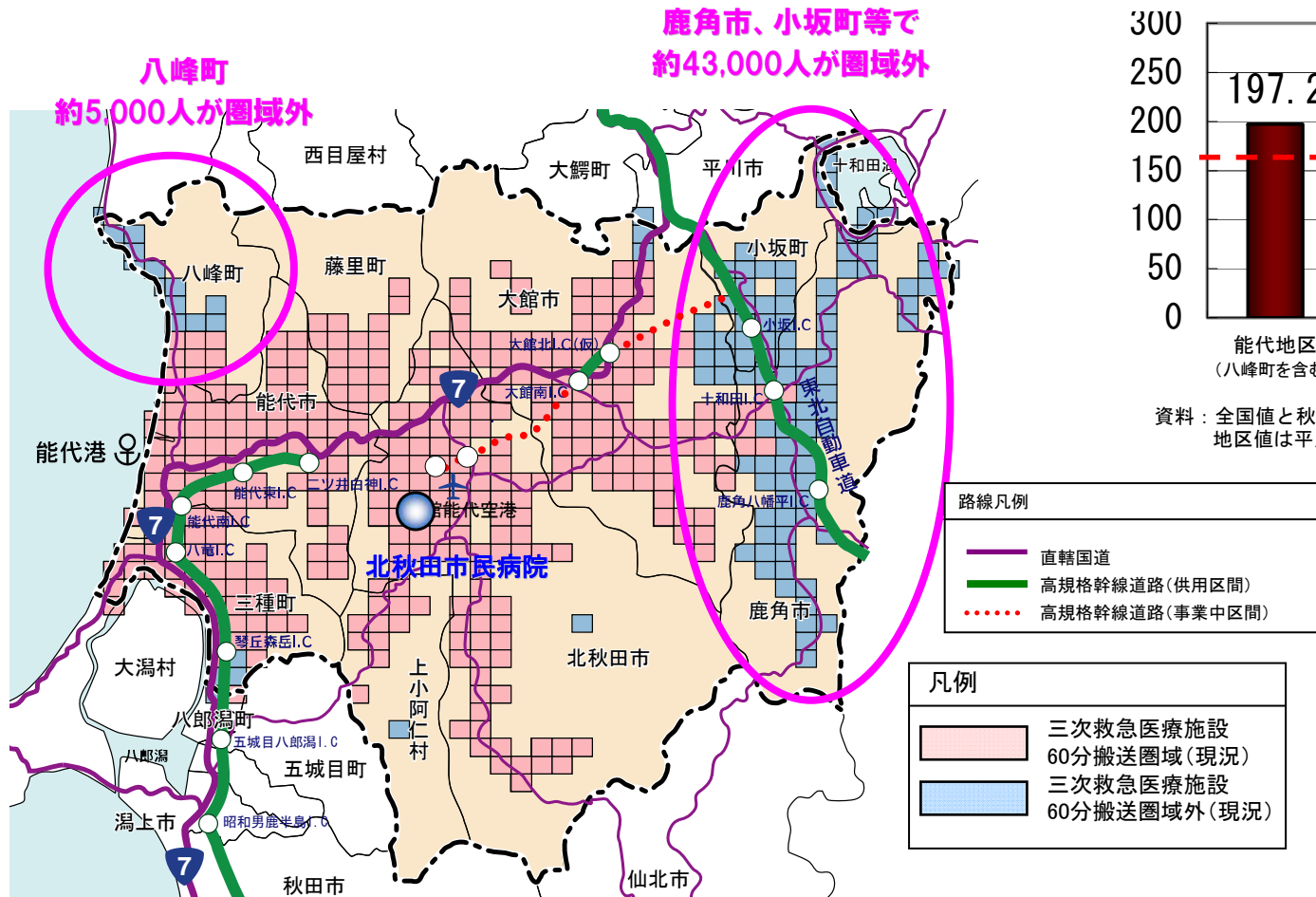


1-⑤ 高次医療の状況

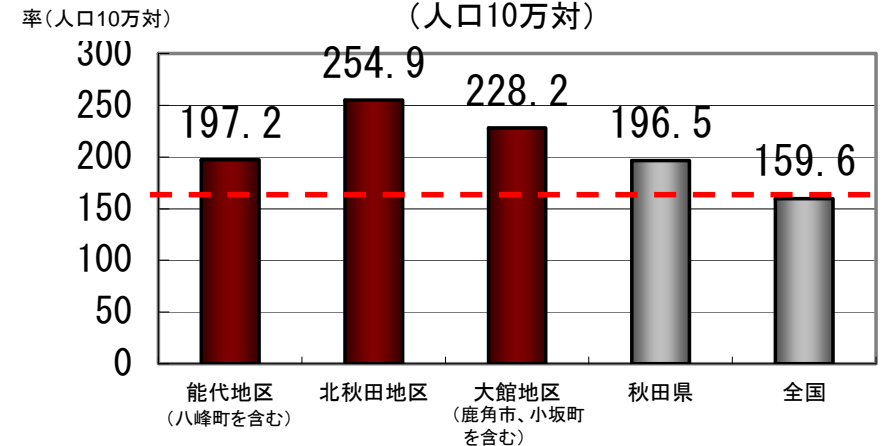
三次医療機能を目指す北秋田市民病院が開院するも、60分搬送圏人口比率は約82%にとどまる

- ◆北秋田市民病院の60分搬送圏人口比率が約82% (全国平均97%、秋田県平均92%) で約4.8万人が圏外
- ◆秋田県の心疾患の死亡率は、全国ワースト6位であり、北秋田地区、大館地区、能代地区は全国平均を大きく上回る

▼三次救急医療施設60分搬送圏域(現況)



▼死因別死亡率(心疾患)
(人口10万対)



資料：全国値と秋田県値は平成21年人口動態統計月報年計(概数)(厚生労働省) 地区値は平成20年秋田県衛生統計年鑑



▲北秋田市民病院(H22.4開業)

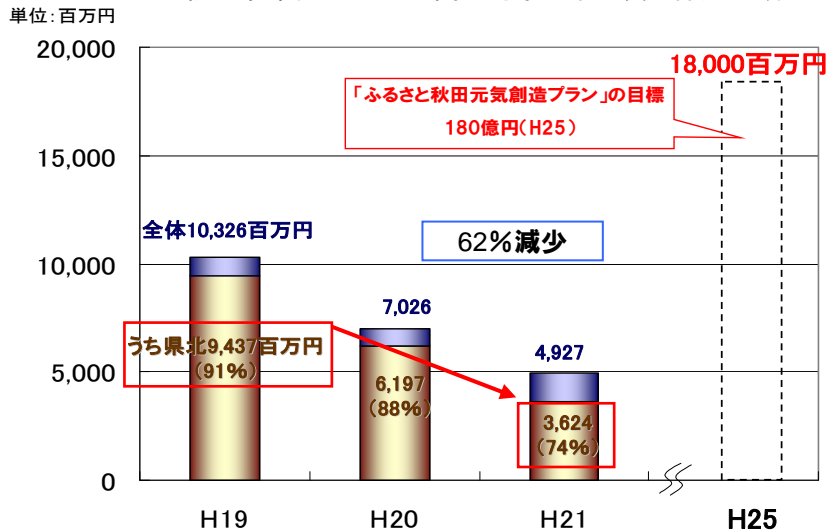
※「秋田県医療保険福祉計画」(H20.4)の中で、「広域的に必要なとされる三次医療機能について、残る県北地域において北秋田市民病院への整備を進めます」と位置づけられている

1-⑥産業の状況(1)

地域の産業基盤となるリサイクル産業の売上が、わずか2年で62%減少。目標値との差が拡大

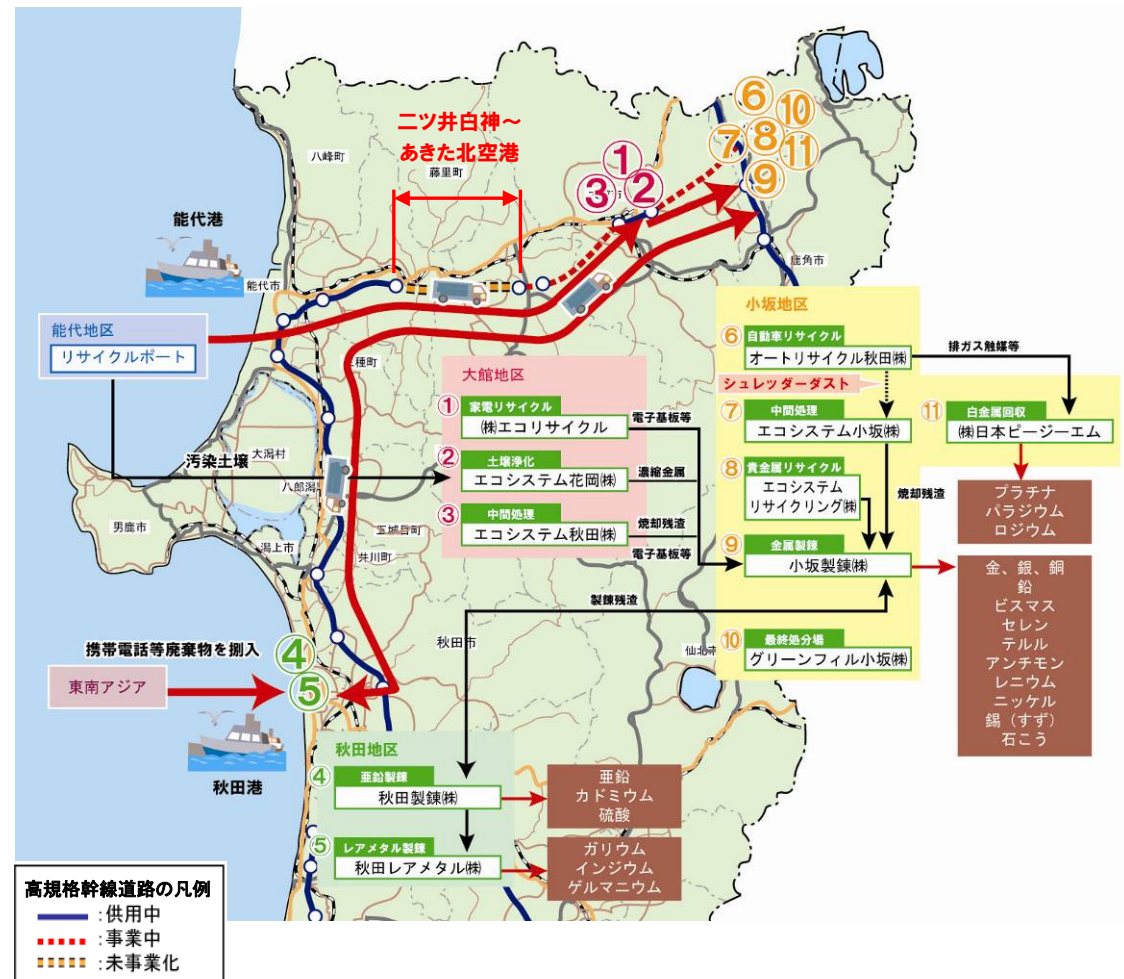
- ◆リサイクル関連対象企業の製造品売上額の減少が大きい
- ◆主な拠点となる能代港～大館地区～小坂地区～秋田港間の時間短縮が企業等から求められている

▼秋田県環境リサイクル関連対象企業の製造品売上額



データの出典: H22.9 秋田県 産業労働部 資源エネルギー産業課 ヒアリング

▼リサイクル産業の搬出入ルート



■リサイクル業者へのヒアリング結果

- ⇒能代港リサイクルポート整備が進められており、汚染土壌の海運運搬を現在の青森港・船川港利用から能代港を利用したい意向。
 - ⇒汚染土壌の運搬途中における土壌流出の防止に最も気を使っていることから運搬時間が短いことが望ましい。
- (H21ヒアリング DOWAエコシステム(株)・エコシステム花岡(株))

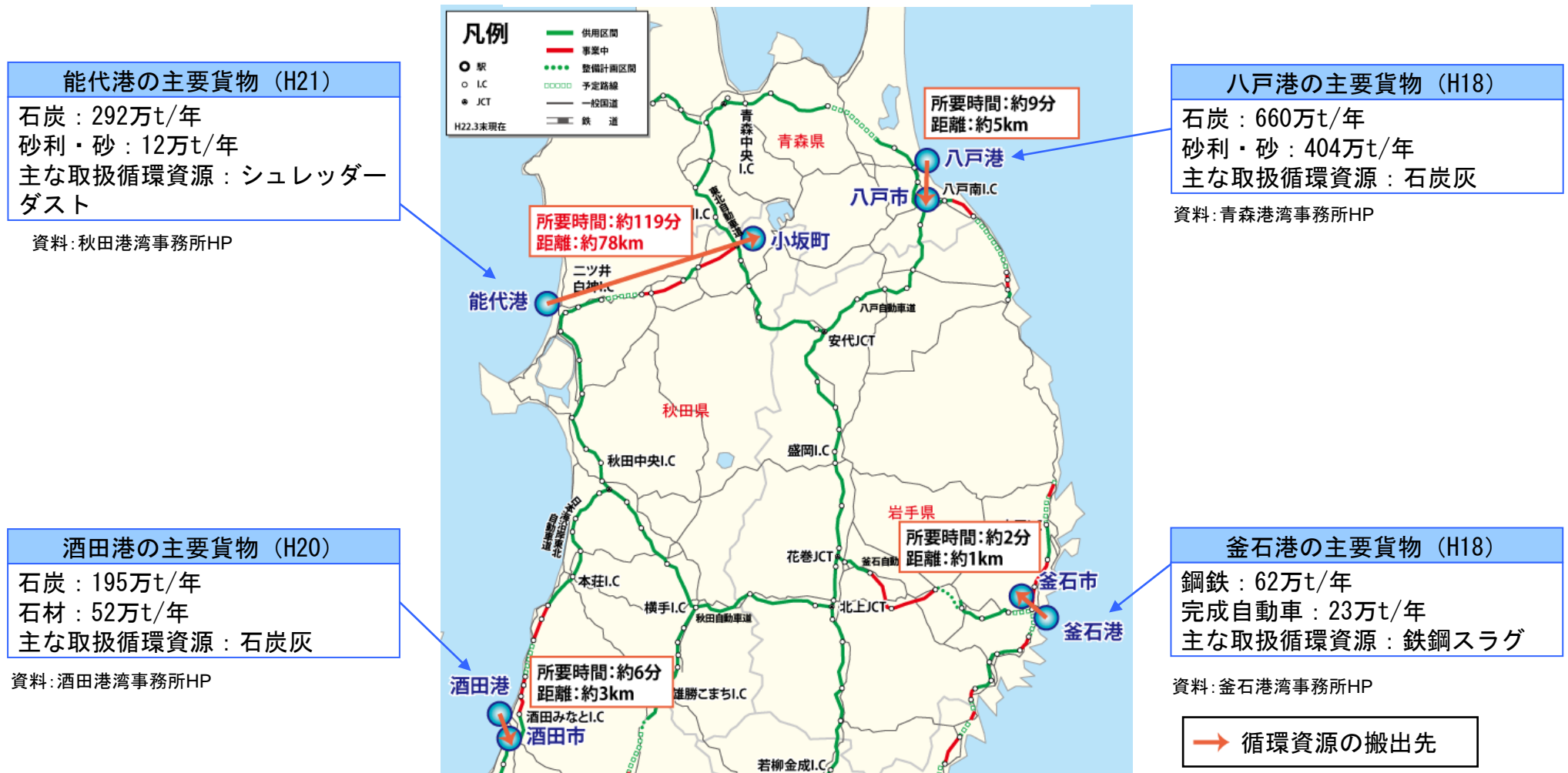
資料: あきたエコタウンセンターHPを参考に作成

1-⑥産業の状況(2)

能代港はリサイクルポートに指定されているが、搬出入先までの移動距離が長い

◆他のリサイクルポートからの循環資源搬送先は近接地となっており、能代港⇄小坂町が最も移動距離が長い

▼東北地方のリサイクルポートからの主な搬送先



資料：道路時刻表07'~08'

1-7 観光の状況(1)

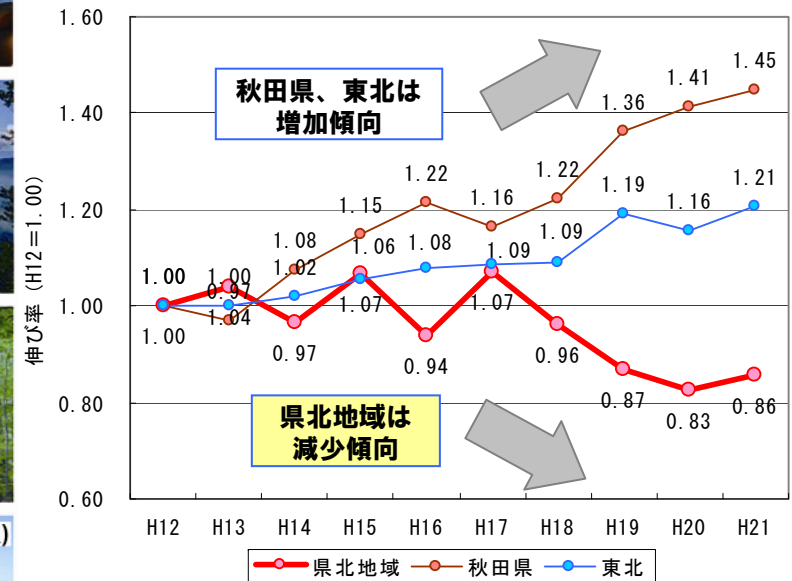
秋田県北地域は魅力的な観光地が多数存在するも観光入込客数は減少傾向

- ◆ 県北地域には豊富な観光施設・景観が存在
- ◆ しかし、10年間で秋田県全体や東北地方では観光入込客数は増加傾向(対H12で東北1.21倍、秋田県1.45倍)であるが、
県北地域は減少傾向(対H12で0.86倍)

▼ 主要な観光地とまつり



▼ 観光入込客数の伸び率



資料: 各県観光統計

資料: 秋田県観光統計(H21)

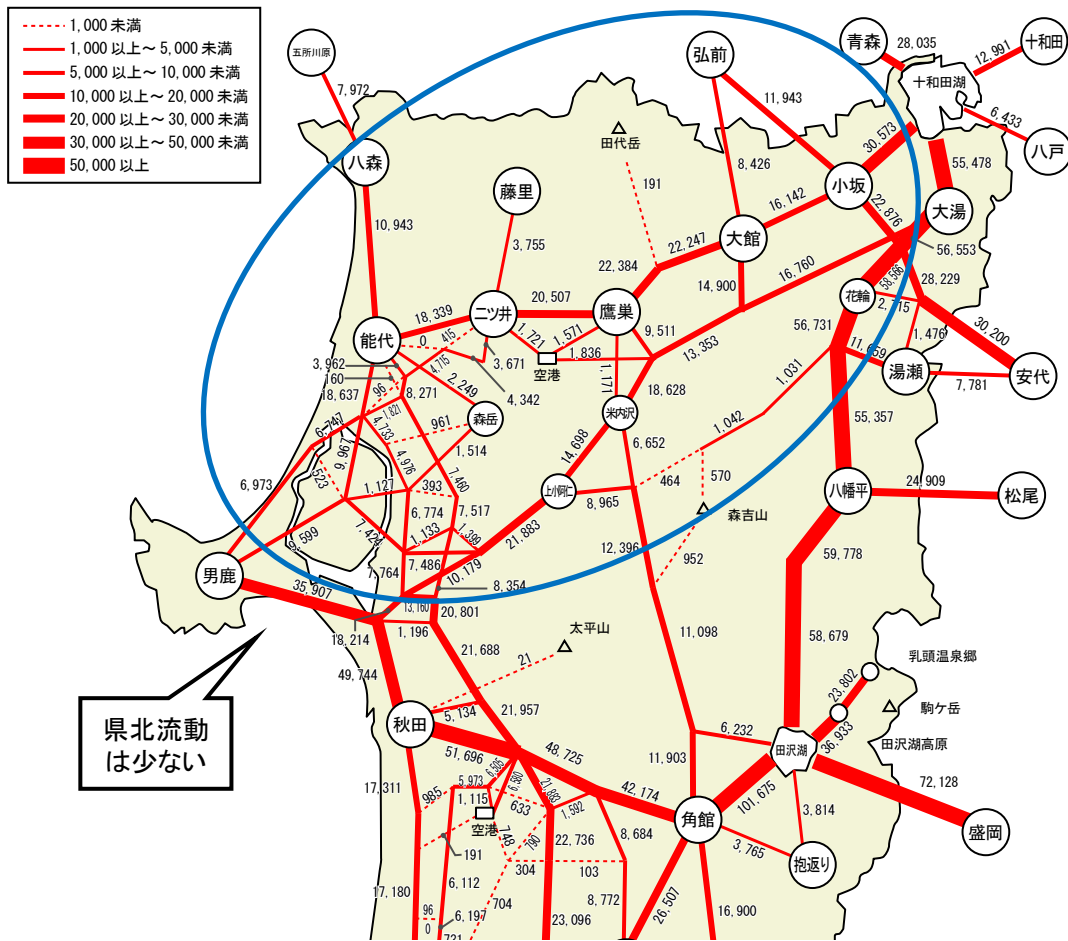
- ・ () は観光入込客数
- ・ 掲載している観光地・まつりは、秋田県観光統計(H21)に掲載されている自然公園と、入込客数20万人以上の行事

1-7 観光の状況(2)

秋田県北地域においては、高速ネットワークの未整備が周遊観光に影響

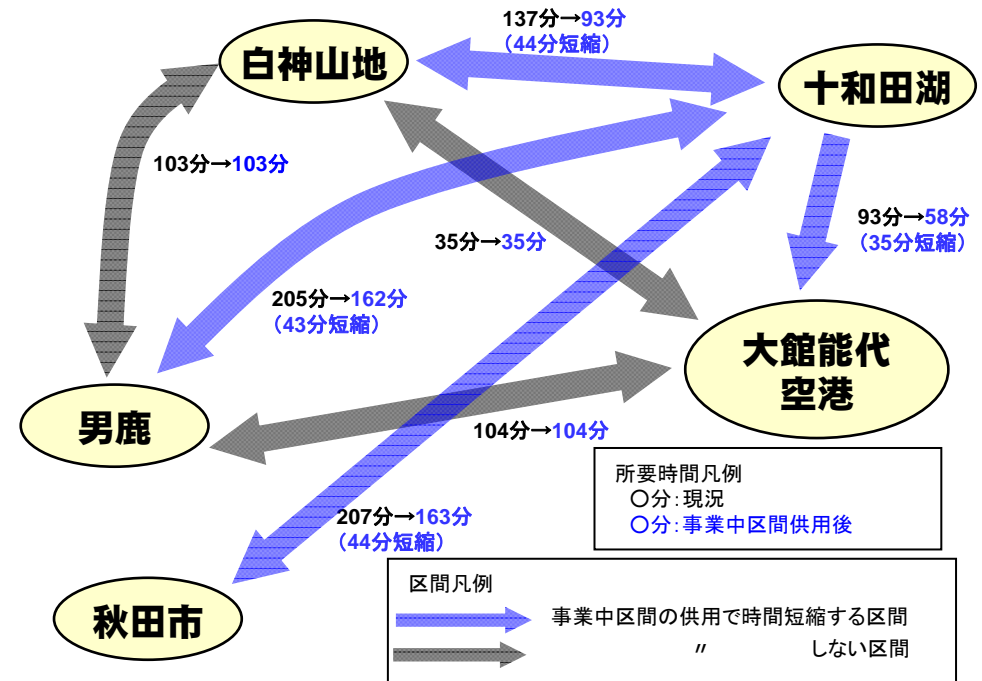
◆秋田県の観光は、十和田湖～八幡平～角館～秋田～男鹿といった観光流動は多いものの、**県北地域の流動は少ない**

◆東北以外からの訪問者の6割が移動時間を考慮して訪問先や訪問箇所数を決めており(H20能代河川国道事務所アンケート結果)、観光バス事業者からは「**現在移動時間が長く、高速道路の必要性が高い**」との声もあり



▲秋田県の観光流動(人/年)

資料: H21秋田県観光統計



●白神山地周辺に宿泊施設が少ないことから、**男鹿や十和田と連携する必要があるが、現在移動時間が長く高速道路の必要性が高い。**
(観光バス事業者 能代市)

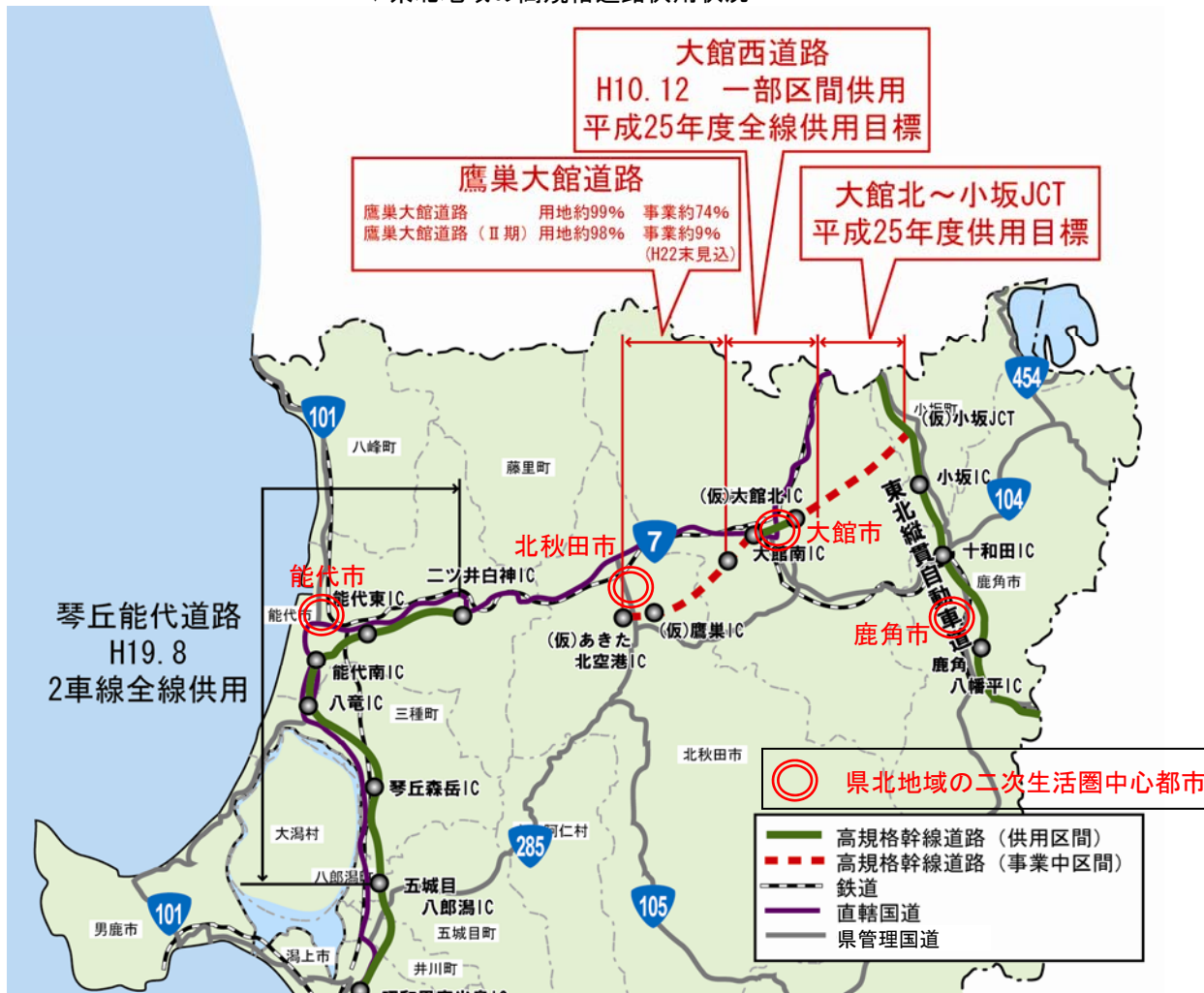
●これまでの北東北の観光は、奥入瀬溪流を含む十和田湖がメインであったが、**世界遺産白神山地はこれらと匹敵する資源**と評価しており、今後これらの2本を大きな柱として活性化していくことを期待している。
(観光関連業者 東京都)

2-①道路網整備の状況

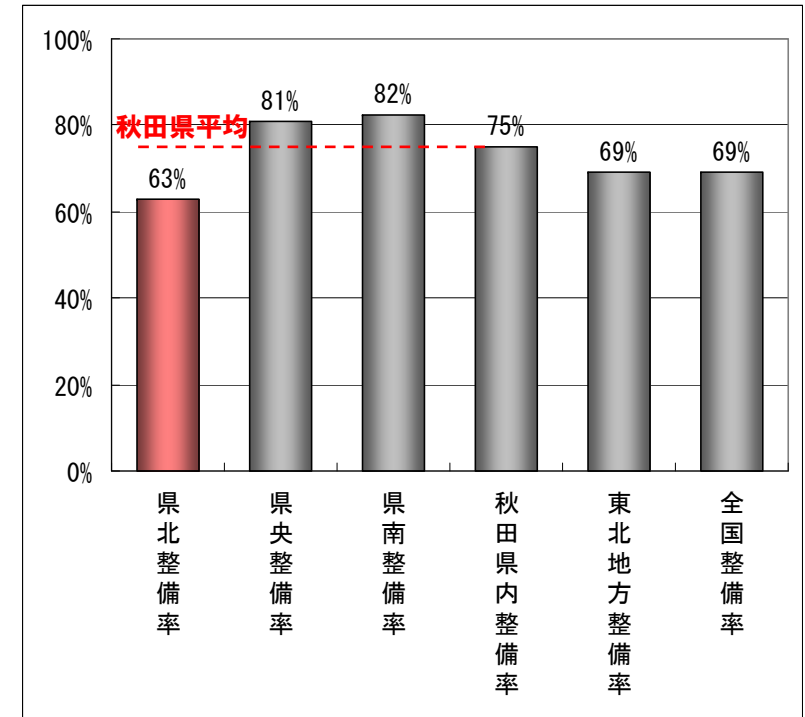
県北地域の高規格道路整備率は約63%と低く整備途上

- ◆高規格道路整備率は、約63%と秋田県内の整備率より12ポイント低い水準
- ◆秋田県北地域では、二次生活圏中心都市間のいずれもが高速ネットワークが繋がっていない

▼県北地域の高規格道路供用状況



▼高規格道路整備率



(平成22年12月現在)

2-② 道路整備の経緯

- ◆ 国道7号の一次改築はS33～S41に供用(2車線)
- ◆ 国道7号の二次改築できみまち局改がS55に暫定2車線供用、ニツ井バイパスがH7に暫定2車線供用
- ◆ 国道7号と並行する県道あきた北空港西線は完成2車線でH10に供用



ニツ井高架橋



▲ニツ井バイパス



きみまち大橋

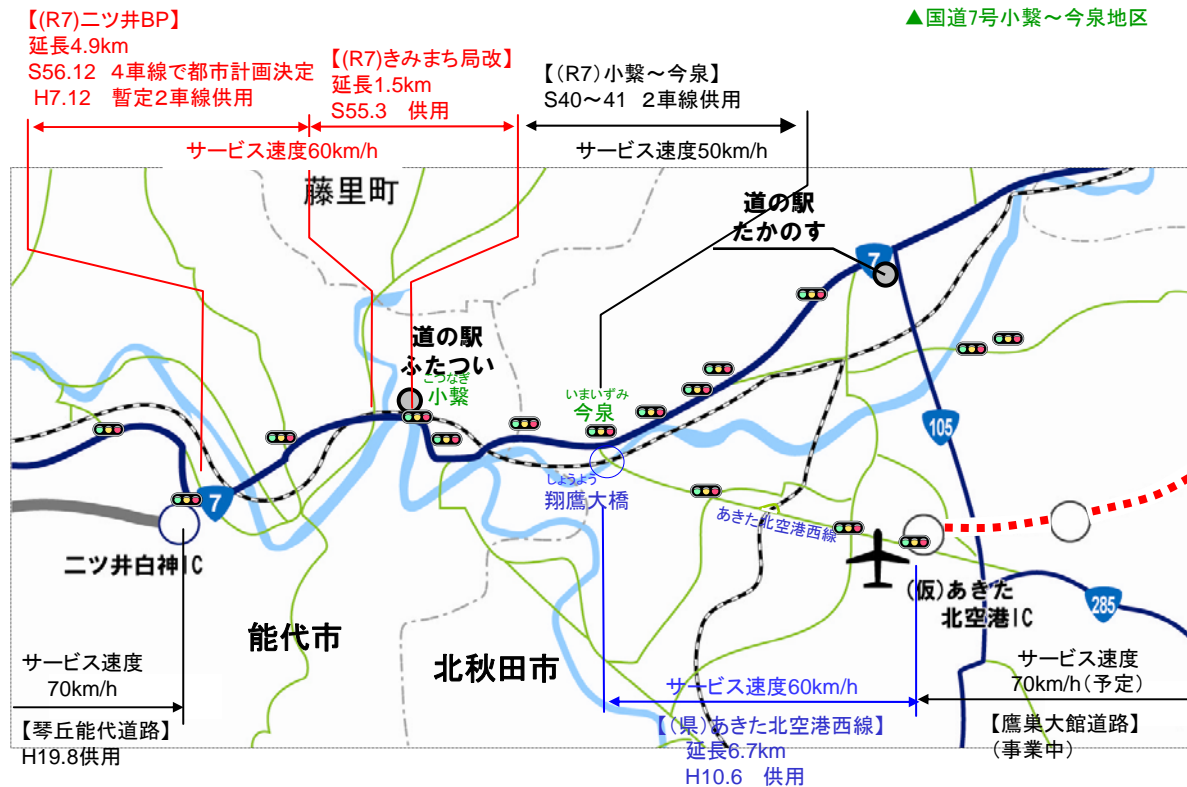
▲きみまち局改



冬期状況

冬期状況

▲国道7号小繋～今泉地区



しょうよう
▲(県)あきた北空港西線(翔鷹大橋)

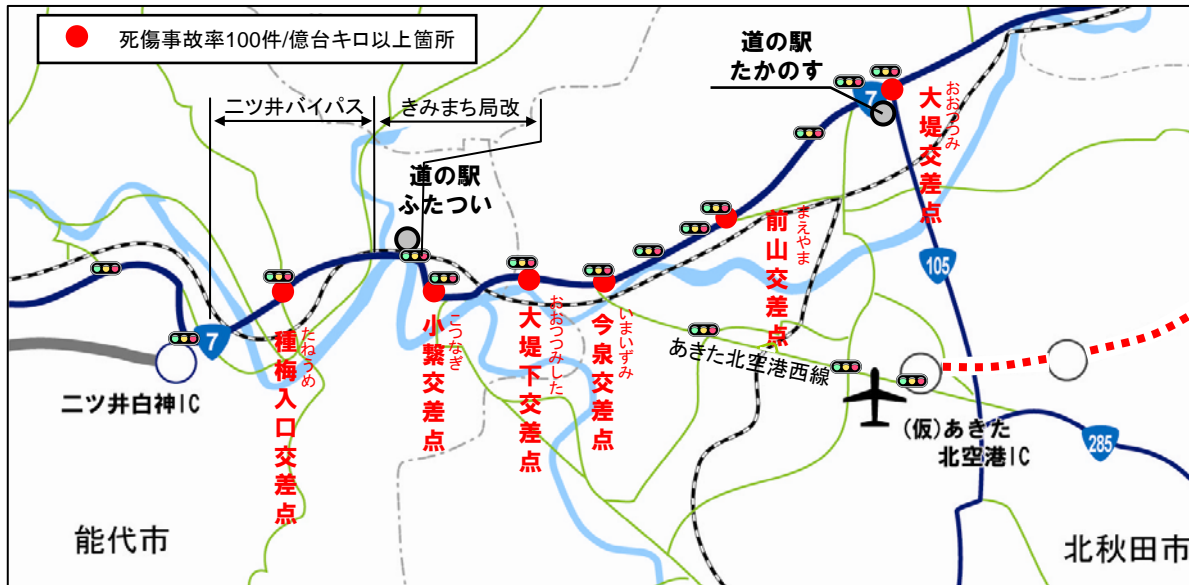


▲(県)あきた北空港西線

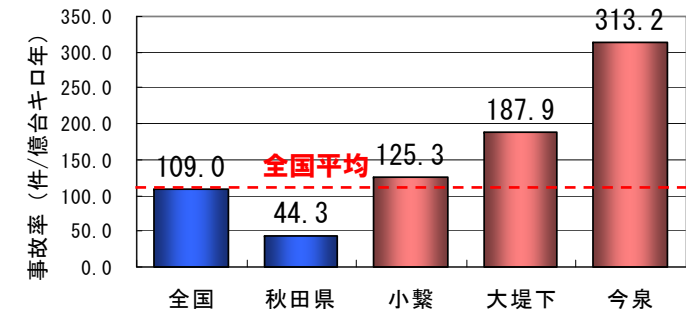
2-③交通事故の状況

事故率が高い交差点が複数存在

- ◆事故率が高い(100件/億台キロ以上)箇所が6箇所存在
- ◆最も事故率の高い今泉交差点では全国平均の約3倍、秋田県の約7倍の事故率
- ◆事故の多くは「追突」



▼事故率比較



資料: 全国、秋田県はH19事故データ(交通事故総合分析センター)
3交差点はH16-H19事故データ(交通事故総合分析センター)

▼今泉交差点

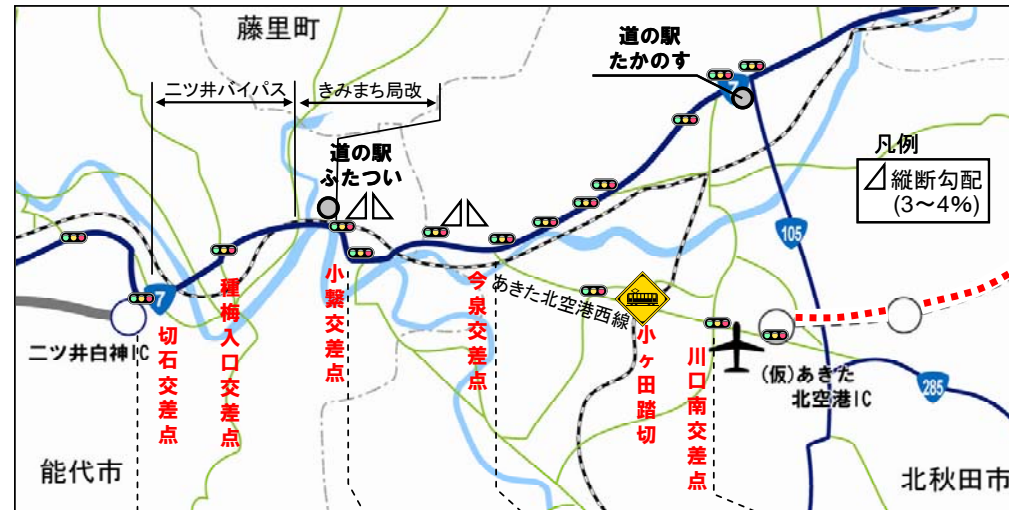


2-④ 走行速度の状況

交差点部や急勾配箇所等で速度低下が発生

◆国道7号の種梅入口交差点、小繫交差点、小ヶ田踏切で速度が大きく低下

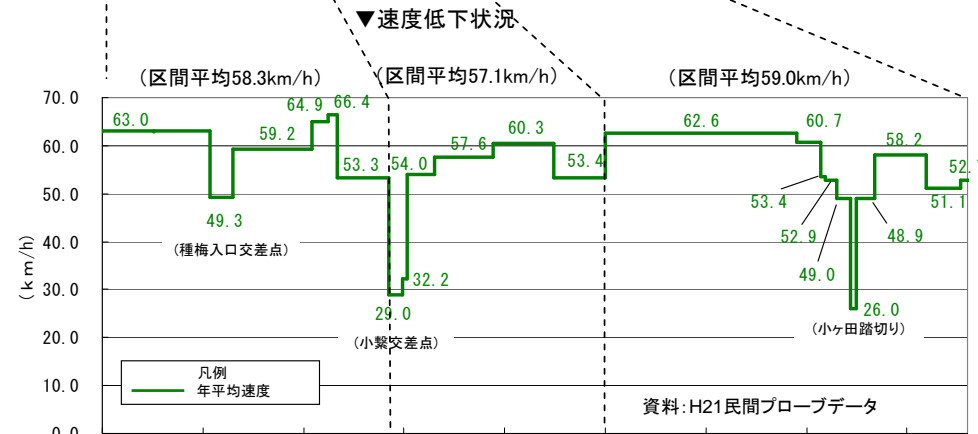
たねうめ
▼種梅入口交差点(国道7号)



こつなぎ
▼小繫地区(国道7号)



こつなぎ
▼小繫交差点(国道7号)



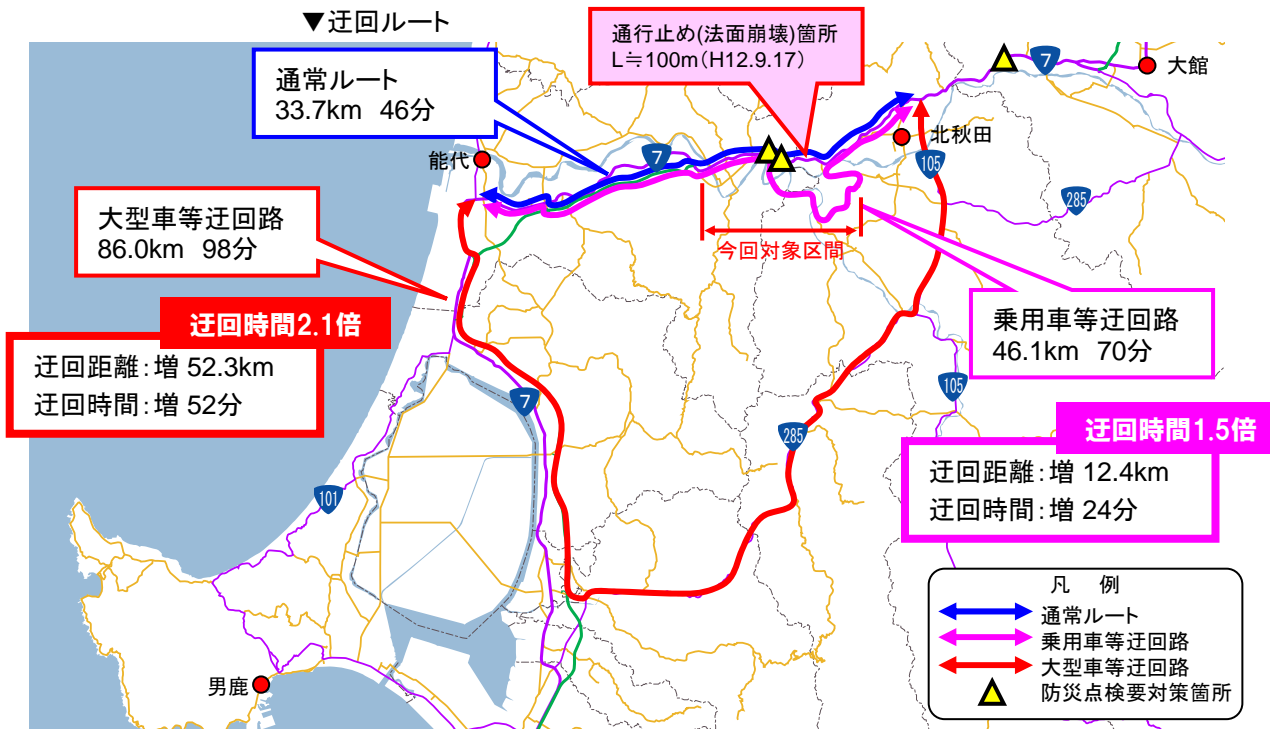
おがた
▼小ヶ田踏切(あきた北空港西線)



2-⑤災害危険度

災害危険箇所が3箇所存在し、災害発生時には所要時間24分（14t超は52分）を要する迂回が発生

- ◆災害危険箇所(防災点検要対策箇所)が3箇所存在
- ◆通行規制を伴う事故、災害がH10以降5回発生
- ◆迂回を伴う通行規制が発生した場合、迂回距離12km（大型車等は52km）、所要時間24分（同52分）



▼法面崩壊(亀裂発生)状況(H12.9.17)



▼通行止め時の渋滞状況



▼交通事故等による規制状況

発生年月日	時間	発生場所	事象	規制	規制時間
H10.5.14	7:50	能代市二ツ井町小繋	事故	全面通行止め	1:15
H10.5.14	7:50	能代市二ツ井町小繋	事故	片側交互通行	1:07
H12.9.17	20:30	北秋田市今泉	土砂災害	全面通行止め	0:30
H18.6.28	9:13	能代市二ツ井町小繋	事故	全面通行止め	1:05
H21.2.17	14:04	能代市二ツ井町小繋	事故	片側交互通行	0:26
H21.3.3	8:10	能代市二ツ井町小繋	事故	片側交互通行	0:48

3. 地域及び道路の課題とその原因

	課題（例示）	原因
地域について	【医療体制】 高次医療施設アクセス60分圏人口は82%にとどまる （全国平均97%）	【医療体制】 救急医療施設への高速アクセスが不十分
	【リサイクル産業】 新たな産業（リサイクル産業）を育成中だが、売り上げが減少 わずか2年で62%減少 （H19:94億円→H21:36億円）	【リサイクル産業】 リサイクル関連拠点間の連携基盤が不十分
	【観光】 有数の観光地として認知されるも、来客数は（H12→H21=0.86倍） 減少傾向 （東北平均では1.21倍）	【観光】 観光拠点間や交通拠点との連携基盤が不十分
道路について	【道路現況】 県北地域の高規格道路の整備率は約63%と低水準 （秋田県平均75%、全国平均69%）	【道路現況】 ミッシングリンクが存在
	【交通状況】 事故率の高い交差点（100件/億台キロ以上）が6箇所近接する	【交通状況】 国道7号で長距離、短距離利用交通が混在
	【防災・迂回】 防災点検要対策箇所が3箇所存在し、大きな迂回を強いられる	【防災・迂回】 脆弱な山間を通過する国道7号と、 代替路が無い脆弱な道路ネットワーク

4. 政策目標の設定(1)

秋田県の総合計画

ふるさと秋田元気創造プラン (H22. 3秋田県)	戦略(抜粋)
秋田に、新たな“戦略産業”を創出する	戦略1:産業経済基盤の再構築戦略 ・鉱山関連技術等を活かした、環境・リサイクル産業のさらなる集積を促進し、国内外での一大拠点化を目指す 【△】
秋田の、“食・農・観”を丸ごと売り出す	戦略2:融合と成長の新農林水産ビジネス創出戦略 ・多様な食を提供する「総合食品供給県」への成長 ・観光産業への活用も踏まえたサクラマス等内水面資源の維持・管理を行う 【□】
県民が一丸となって“脱少子化秋田”を目指す	戦略3:県民参加による脱少子化戦略 ・出生数の減少に歯止めをかけ、増加に転じる
高齢社会に対応した、“安心医療秋田”、“協働社会秋田”をつくる	戦略4:いのちと健康を守る安全・安心戦略 ・生活習慣病(脳血管疾患)による人口10万人当たり年齢調整死亡率について、全国平均値以下を目指す。 ・自殺による人口10万人当たり死亡率を減少させる 【○】
	戦略5:協働社会構築戦略

【凡例】

- 医療関係
- △ リサイクル産業関係
- 観光関係

各市町の総合計画

	内容(抜粋)
【能代市】 みんなでつくる “わ”のまち能代 総合計画 (H20. 3)	○環境を核とした活力ある産業創出 能代港の利活用を積極的に進めながら、秋田県北部エコタウン計画と連携して、資源リサイクル産業の創出を図る。 【△】
	○安心で健康を保てる医療体制 総合的な医療体制確保、効率的で利用しやすい医療体制整備。 【○】
【北秋田市】 美しい自然が響きあい、 交流とふれあいの創出により、 未来を開く 総合計画 (H18. 3)	○豊かな自然とその恵みを活かす観光 白神山地や風の松原、きみまち阪などの豊かな自然を活かし観光素材の確立や掘り起こしに努める。 交流が広がるイベントや行事を支援。観光素材をメニュー化して受け入れ体制整備。 【□】
	○みんなで支えあうぬくもりのあるまちづくり 保健・医療・地域福祉の充実、安心して子育てできる環境の充実。 【○】
【大館市】 21世紀に飛翔する 環境先端都市 新総合計画 (H18. 4)	○人が集まるにぎわいのあるまちづくり 白神山地、十和田・八幡平国立公園、田沢湖や角館など周辺地域との広域的な連携を推進し、誘客を図る。 広域的観光の玄関口として大館能代空港からの観光動線を整備。 【□】
	○経済基盤の確立を目指す環境と調和した 産業都市 これまで集積された技術を生かしたりリサイクル産業の振興。新たな技術集積を進め産業基盤を強化。 【△】
	○健康で生きがいのある生涯を支える 総合福祉都市 高度な医療への要望に対応するため、広域的な医療体制の連携強化。救急医療体制の充実。 【○】
【藤里町】 緑と魅力にあふれる町 ・ふじさと・ 総合振興計画 (H16. 3)	○健康で明るくやさしい町づくり 保健・医療・福祉の充実と連携。 【○】
	○ふれあいあふれる美しい町づくり 白神山地の世界遺産登録以降、ネームバリューは高くなり着実に観光客は増加。 さらなる観光リピーターの増加、誘客を目指し、観光地としての整備を進める。 【□】

4. 政策目標の設定(2)

■ 以上を踏まえ、当該地域の政策目標を設定

1. 高次医療機関への**速達性確保**
2. リサイクル関連拠点間の**連携向上**
3. 観光拠点間の**速達性確保**

■ 対策案の検討

【高次医療機関関係】

・今年開院し、秋田県北地域の第三次救急医療機能を目指す北秋田市民病院のカバー圏を拡大する道路とは

【リサイクル産業関連】

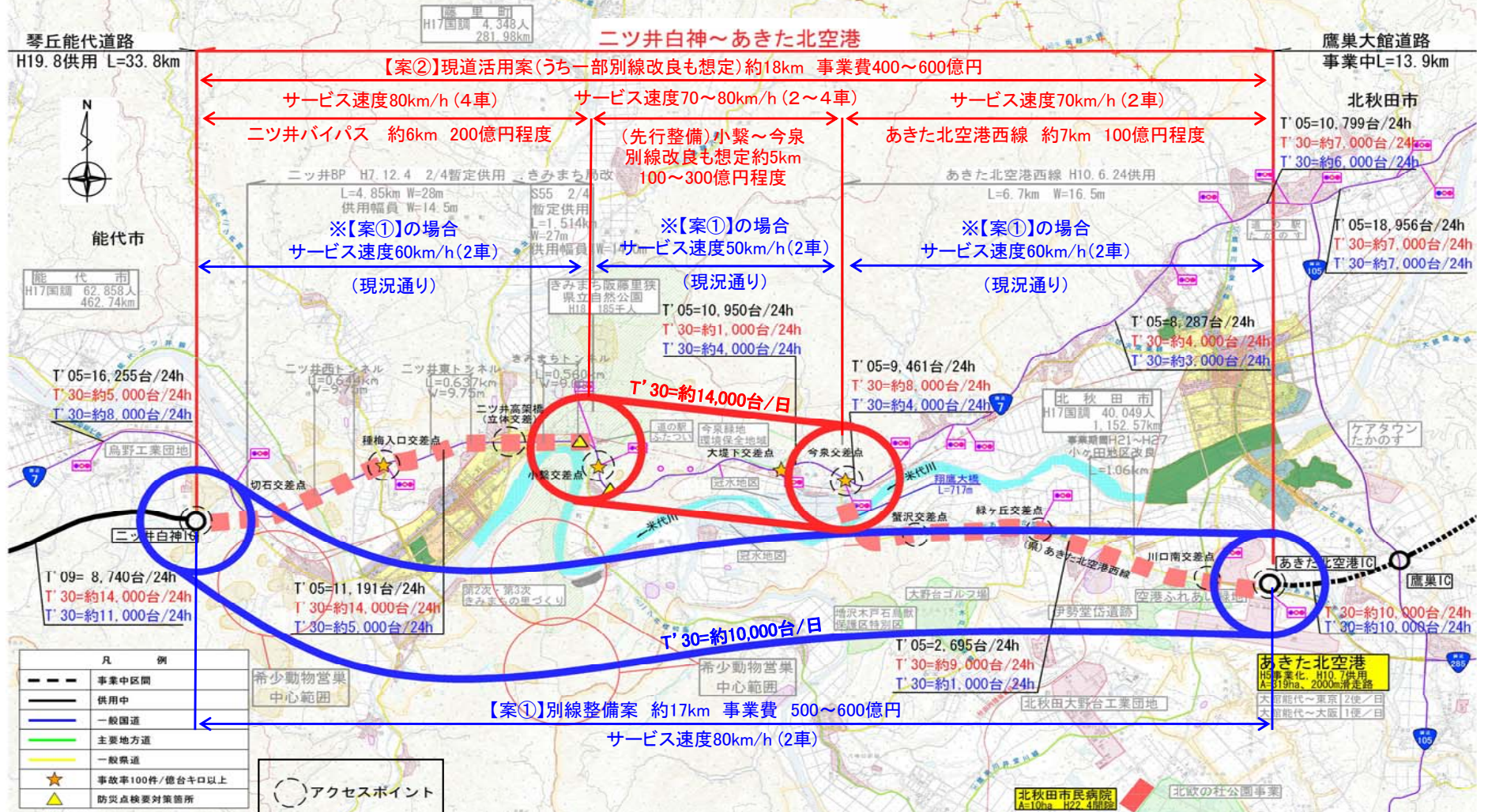
・拠点となる能代港～大館地区～小坂地区～秋田港の連携強化を支援する道路とは

【観光関連】

・観光拠点の十和田湖や男鹿半島、交通拠点の大館能代空港、東北新幹線秋田駅・新青森駅から観光客を秋田県北地域に誘う道路とは

当該地域の高規格道路の空白域の整備方針を検討

5. 整備方針の検討(対策案の設定)



【対策案の凡例】

- ■ ■ 現道活用の高規格化
- 別線の高規格道路
- 改良区間

	【案①】別線整備案	【案②】現道活用案(うち一部別線改良を想定した場合)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・走行性は良い(最小曲線半径1,100m、最急縦断勾配3%) ・建設期間が長い 整備効果の発現まで時間がかかる (全線整備完了まで利用不可能) ・アクセスポイントが起終点IC2箇所のみで、国道7号沿線等の利便性は低い ・現道の交通量は半減。ニツ井バイパスは将来とも2車線 	<ul style="list-style-type: none"> ・案①に比べ走行性は劣る(最小曲線半径300m、最急縦断勾配4%) ・早期のネットワーク化が可能 段階建設により整備効果が早期に発現 (先行整備する小繋～今泉間が案①に比べ早期に利用可能) ・現道活用であるためアクセスポイントが9箇所あり、沿線の利便性は高い ・将来は、ニツ井バイパスの4車線化と、現道活用区間の自動車専用道路化に伴い、自転車・歩行者等の旧道迂回等が必要

5. 整備方針の検討(対策案の効果例(医療))

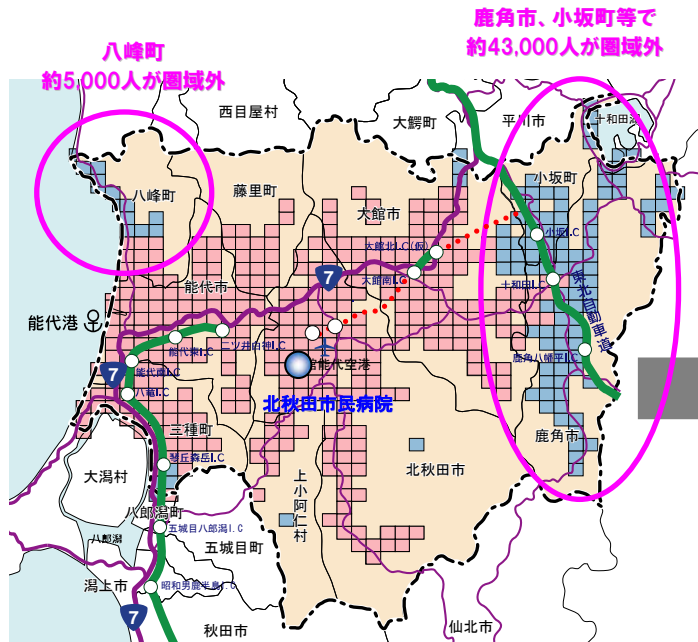
対策案により八峰町等で約4,000～5,000人の北秋田市民病院60分搬送圏域外人口を解消

【高次医療施設(北秋田市民病院)への速達性確保】

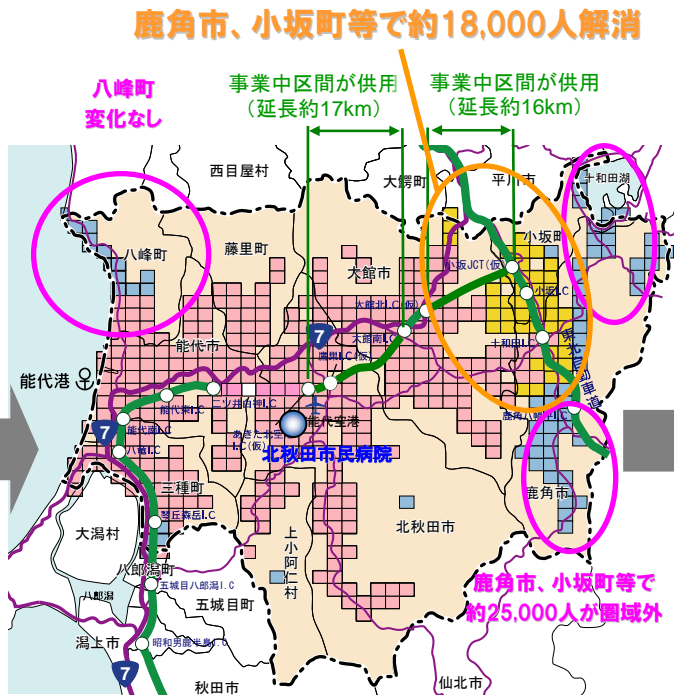
《現況》

《事業中中間供用後》

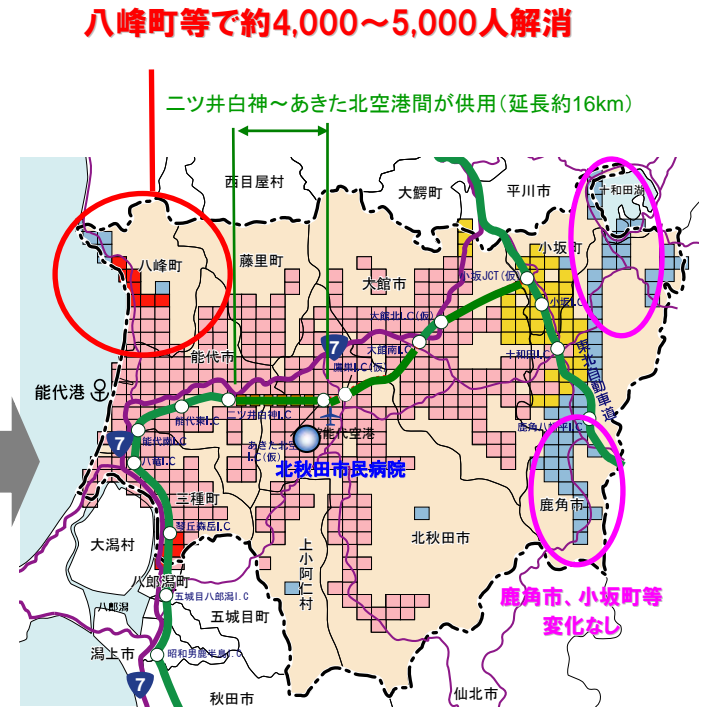
《日沿道全線開通後》



60分圏域外人口約48,000人



60分圏域外人口約30,000人



60分圏域外人口約25,000～26,000人

北秋田市民病院60分搬送圏域の凡例

- 現況
- 上に加え事業中中間整備後
- 上に加え日沿道全線開通後
- 圏域外

路線凡例

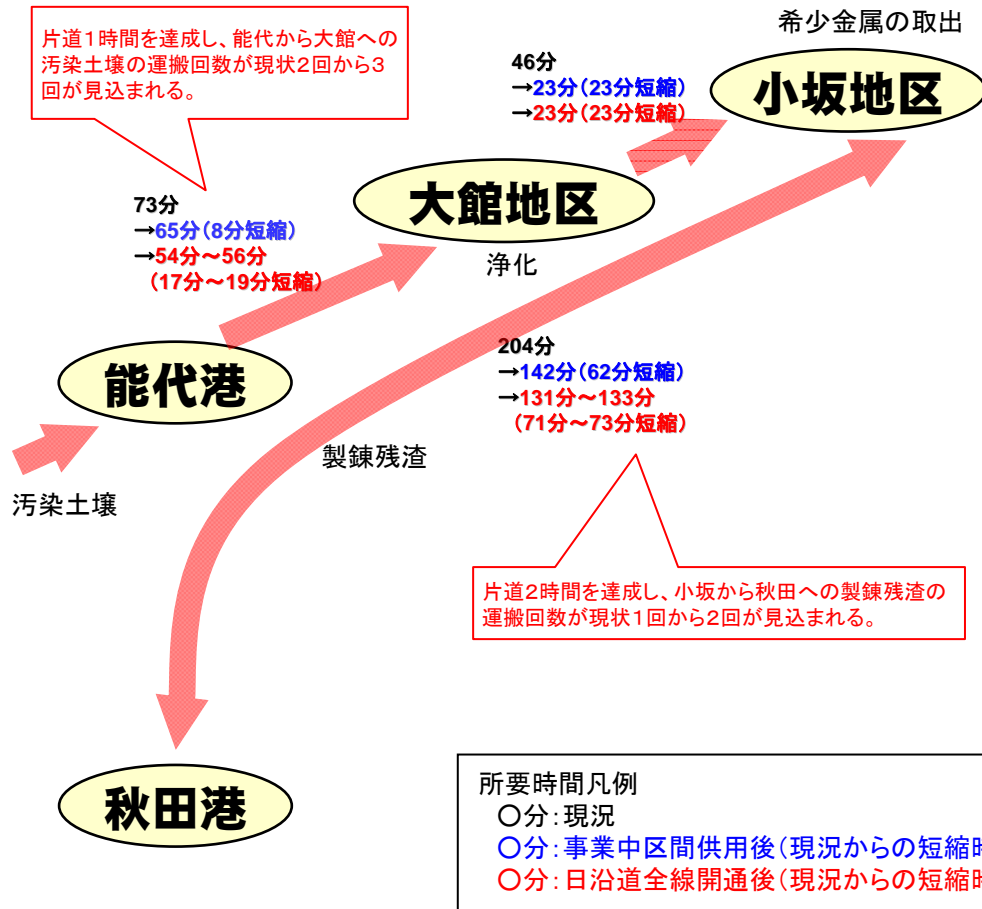
- 直轄国道
- 高規格幹線道路(供用区間)
- 高規格幹線道路(事業中中間)

5. 整備方針の検討(対策案の効果例(産業、観光))

【リサイクル関連拠点間の連携向上】

(例) 汚染土壌リサイクル関連企業間の時間短縮

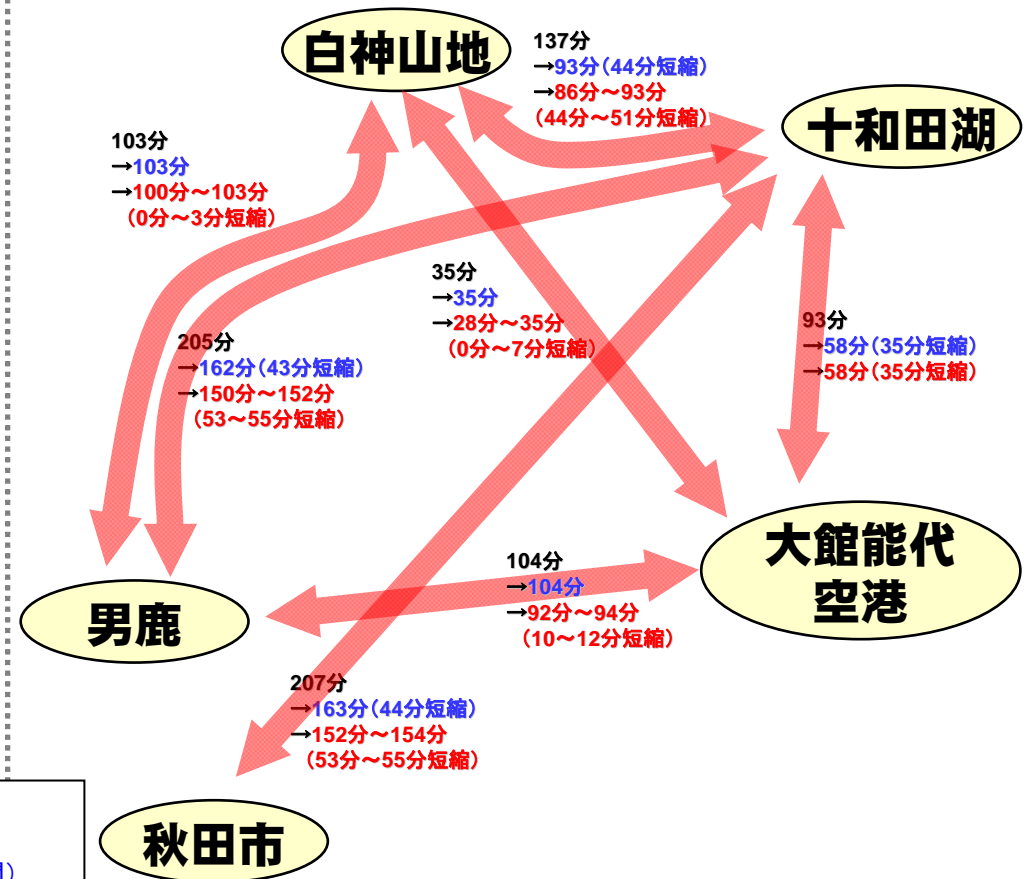
運搬回数増加による取引量拡大で、
売上額増加に期待(業者ヒアリングより)



【観光拠点間の速達性確保】

(例) 主な観光地の時間短縮

観光拠点間の時間短縮による周遊箇所
の増加で、地域活性化に期待



5. 整備方針の検討(対策案の効果等の比較)

政策目標	【案①】別線整備案(2車線) 約17km	【案②】現道活用案(うち一部別線改良も想定) 約18km (一部別線改良約5km)
		・速達性の観点から全線別線とし、コスト縮減のため2車線とする案
高次医療機関(北秋田市民病院) への速達性確保 (指標:北秋田市民病院への 60分搬送圏域外人口の改善)	・60分搬送圏域外人口の変化 【現 況】 約4.8万人 【整備後】 約2.5万人 ※ ⇒2.3万人の解消	・60分搬送圏域外人口の変化 【現 況】 約4.8万人 【整備後】 約2.6万人 ※ ⇒2.2万人の解消
リサイクル関連拠点間の速達性確保 (指標:能代港と大館地区の1時間以内達成)	・能代港—大館地区の移動時間の変化 【現 況】 約73分 【整備後】 約54分 ※ ⇒約19分の短縮(1時間以内達成)	・能代港—大館地区の移動時間の変化 【現 況】 約73分 【整備後】 約56分 ※ ⇒約17分の短縮(1時間以内達成)
観光拠点間の速達性確保 (指標:十和田湖と白神山地の所要時間の改善)	・十和田湖—白神山地の所要時間の変化 【現 況】 約137分 【整備後】 約93分 ※ (ただし、当該区間は利用経路とならない) ⇒約44分の短縮	・十和田湖—白神山地の所要時間の変化 【現 況】 約137分 【整備後】 約86分 ※ ⇒約51分の短縮
整備効果の発現 と沿線の利便性	・建設期間が長く、整備効果の発現まで時間がかかる (全線整備完了まで利用不可能) ・アクセスポイントが起終点IC2箇所のみで、国道7号 沿線等の利便性は低い	・段階建設による整備効果が早期に発現し、早期の ネットワーク化が可能(先行整備する小繫～今泉間が 案①に比べ早期に利用可能) ・現道活用であるためアクセスポイントが9箇所あり、 沿線の利便性は高い
コスト	約500～600億円	約400億円～600億円 (うち小繫～今泉間100億～300億)

※【整備後】の数値は、現在事業中の他区間の効果も含む。

6. 地域からの意見聴取の方法

【内 容】

- 地域の課題と政策目標、対策案に対する意見を幅広く聴取

【方 法】

- 地域住民 : アンケート

説明会を開催し、チラシ・アンケートを配布

その他、市役所等でオープンハウス設置

- 地域住民以外 : HPアンケート

※説明会は、能代市、北秋田市で各1会場を予定

【周知方法】

- 地域住民 : 秋田県北地域の各市町村で広報掲載

- 地域住民以外 : ホームページ

【意見聴取期間】

- 1ヶ月程度

【実施主体】

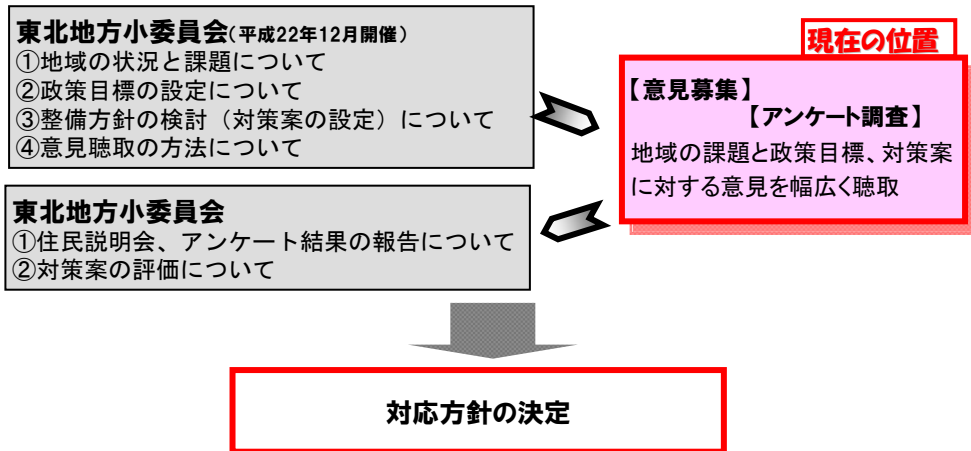
- 国土交通省、秋田県、能代市、北秋田市

6. 地域からの意見聴取の方法

アンケートイメージ(表面)

今回の意見募集と計画段階評価の流れ

今回の意見募集は「社会資本整備審議会道路分科会東北地方小委員会」で行われている「計画段階評価」の一環で行われています。
 皆様から頂いたご意見は、国・秋田県・能代市・北秋田市で取りまとめ、さらに秋田県の意見も加えて「東北地方小委員会」に伝達されます。
 「東北地方小委員会」では、当該区間の計画について審議・評価を行います。



- 意見募集方法:別紙のアンケート用紙にご記入の上、投函BOX又は郵送(FAX可)にて回答をお願いします。
- 意見募集期間:平成23年1月〇日()~平成23年2月〇日()
- 意見の送付先:(投函BOX)
 - 秋田県山本地域振興局
 - 秋田県北秋田地域振興局
 - 能代市役所
 - 北秋田市役所
 - 道の駅「ふたつ」「たかのす」
- (郵送)
 - 国土交通省 能代河川国道事務所 調査第二課
 - 〒016-0121 秋田県能代市誠淵字一本柳97-1
- (FAX)
 - 0185-70-1141
- お問い合わせ先:
 - 国土交通省 能代河川国道事務所 調査第二課
 - TEL 0185-70-1194(直通)

日本海沿岸東北自動車道 ニツ井白神IC~あきた北空港IC(仮称)間の 道路計画に向けた意見募集

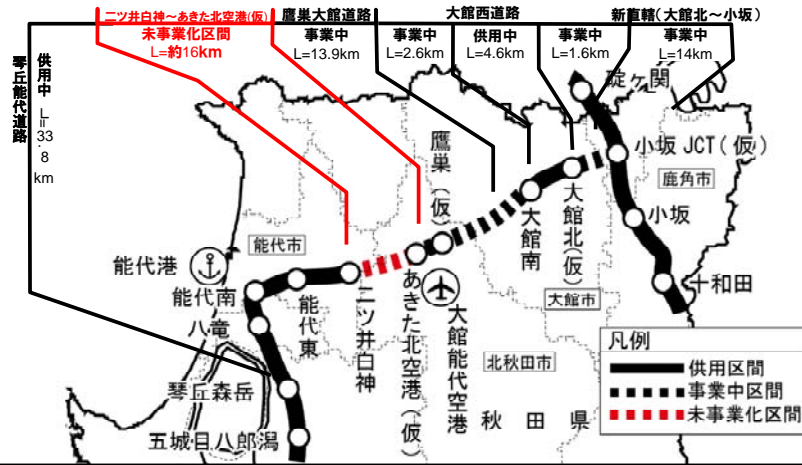
ニュースレター キックオフ号

日本海沿岸東北自動車道は、新潟市から日本海に沿って山形県・秋田県を通過し、秋田県内陸部で東北縦貫自動車道と接続し、青森県に至る延長約320kmの高速道路です。

日本海沿岸東北自動車道は、主要な港湾や空港等を高速道路で結ぶことにより、日本海沿岸地域の産業・観光等の発展、また救急医療サービスの向上など地域の生活を支援する重要な路線として位置づけられています。

ニツ井白神IC~あきた北空港IC(仮称)間の道路計画案については、12月16日に開催した東北地方小委員会で議論した地域課題と対策案等について皆様や自治体の意見をお聞きした上で、今後計画段階評価※を行い、道路計画を決定していきます。

※計画段階評価とは、公共事業の実施過程の透明性を一層向上させる観点から、代替案の比較評価を行う計画段階において事業評価を行うものです。



事務局: 国土交通省 東北地方整備局 能代河川国道事務所 調査第二課

- 秋田県〇〇課
- 能代市〇〇課
- 北秋田市〇〇課

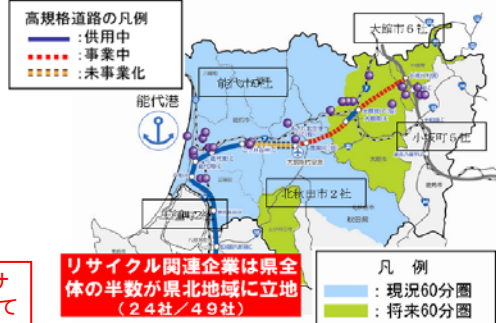
6. 地域からの意見聴取の方法

アンケートイメージ(裏面)

日沿道の整備効果

移動時間短縮によるリサイクル産業等の支援

国内及び世界でもトップクラスのリサイクル産業が集積する大館・小坂地区とリサイクルポートである能代港との所要時間が短縮し、連携強化を図ることでエコタウン計画を支援します。



日沿道の整備によりリサイクル関連企業49社全てが能代港60分圏に

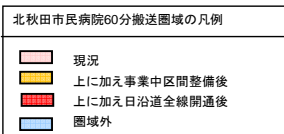
リサイクル関連企業は県全体の半数が県北地域に立地(24社/49社)

▲リサイクル関連企業の立地状況と能代港60分到達圏

県北地域の基幹病院である北秋田市民病院への60分搬送圏域外人口を縮小し、地域医療を支援

北秋田市民病院への60分搬送圏域外人口を縮小することで、より多くの人に高度医療や救急医療を受けることが可能となり、地域の救急医療を支援します。

【整備効果】
設定した政策目標に関連する整備効果事例等を掲載。



▲北秋田市民病院60分搬送圏域

観光拠点間の移動時間を短縮し、地域活性化を支援

観光拠点間の移動時間を短縮することで、周遊箇所が増加や滞在時間の延長により、地域活性化を支援します。



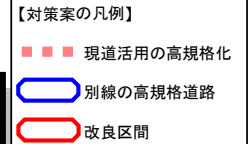
▲観光拠点の移動時間短縮(例)

日本海沿岸東北自動車道(二ツ井白神IC~あきた北空港IC(仮称))における道路の通過帯(案)の考え方

道路の通過帯(案)についてご意見をお聞かせください。

●通過帯は以下の2案を考えています

- ◆ **Aルート**: 二ツ井白神ICとあきた北空港IC(仮称)を、新しい道路でつなぐ案
- ◆ **Bルート**: 現道(二ツ井バイパス、あきた北空港西線)を活用し、小繋~今泉間を改良する案



【対策案の説明】
設定した対策案を比較し、説明。

	【案①】別線整備案	【案②】現道活用案(うち一部別線改良を想定した場合)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 走行性は良い(最小曲線半径1,100m、最急縦断勾配3%) 建設期間が長い 整備効果の発現まで時間がかかる (全線整備完了まで利用不可能) アクセスポイントが起終点IC2箇所のみで、国道7号沿線等の利便性は低い 現道の交通量は半減。二ツ井バイパスは将来とも2車線 	<ul style="list-style-type: none"> 案①に比べ走行性は劣る(最小曲線半径300m、最急縦断勾配4%) 早期のネットワーク化が可能 段階建設により整備効果が早期に発現 (先行整備する小繋~今泉間が案①に比べ早期に利用可能) 現道活用であるためアクセスポイントが9箇所あり、沿線の利便性は高い 将来は、二ツ井バイパスの4車線化と、現道活用区間の自動車専用道路化に伴い、自転車・歩行者等の旧道迂回等が必要

7.【参考】今後の想定スケジュール

平成22年12月【今回】

平成23年1～2月頃

平成23年

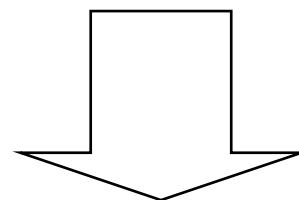
東北地方小委員会

説明会、アンケート等実施

地方小委員会

説明会、アンケート結果の報告

対策案の評価



対応方針の決定